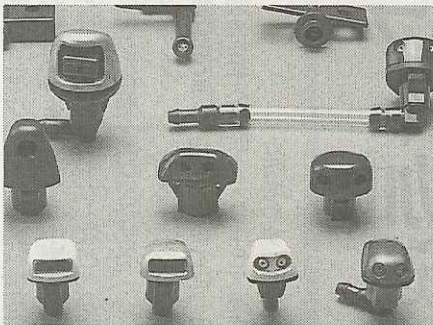
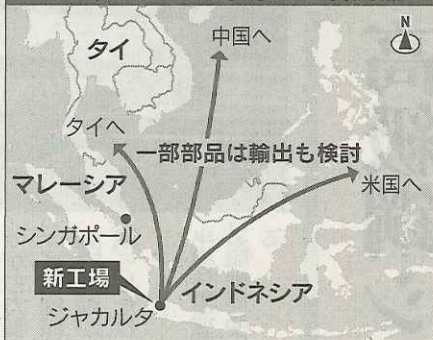


玉野化成のインドネシア新拠点



今年のウオッシャーノズルの生産量は約3000万個を見込む

インドネシアに工場 玉野化成

【名古屋】自動車用ウオッシャーノズル大手の玉野化成(名古屋市、玉野直樹社長)は、インドネシアで海外生産に乗り出す。約7億円を投じて同国に建設した新工場を2012年前半に移働させる。当面は月30万個のウオッシャーノズルを生産し、将来は生産量を3倍に引き上げる。同部品の国内シェアは約7割で、国外向けには輸出で対応していたが、円高が深刻化する中、海外生産に踏み切る。

新工場は、首都ジャカルタ東部のカラワン県に建設した。ウオッシャーノズルは来夏から月30万個規模で本格生産を始める。2〜3年かけて月1

ウオッシャーノズル生産 米中に輸出も検討

00万個規模に引き上げる。同国ではトヨタ自動車やダイハツ工業など日系自動車大手が新工場の建設計画を発表しており、市場拡大が確実視されている。

現在75万台規模のインドネシアの新車市場は、数年内に100万台に到達する見通し。アジアでは中国、インドに次ぐ巨大市場に成長すると見込まれ、人件費も比較的安い。玉野化成にとってインドネシアは初めての海外生産拠点となる。同国市場を取り込むほか、一部は中国やタイ、米国への供給も想定している。

玉野化成は非工場の中堅自動車部品メーカーだが、ウオッシャーノズル市場で約2割の世界シェアを握る。デンソーを通じて、トヨタ車のほぼ全量に供給しているほか、

海外自動車メーカーにも供給している。ウオッシャーノズル市場は玉野化成のほか、米国とドイツの実質3社でシェア競争を繰り広げている。今後は「低価格を売りにした中国などの地場企業との競争が増える」(玉野社長)とみて、海外生産でコスト競争力を高める必要があると判断した。

玉野化成の11年の国内

生産は月250万個程度。過去最高だった06年の270万個弱には届かないが、4年ぶりの高水準を確保する。海外生産の縮小にどう対応するかが課題となるが、玉野社長は「非自動車事業を強化するなどし、国内の雇用は極力維持したい」としている。